

事業展開（JF共済3か年計画）

■ JF共済がめざすもの

JF共済は協同組合運動に根ざしたJFの主要事業として、海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献することをめざします。

■ 事業展開の全体目標（長期目標）

JF共済は、「組合員・地域住民の暮らしの保障に万全を期す」ために取り組んでまいります。

- ① JF共済は、共済事業量の維持・拡大をはかることによって、共済事業実施基盤を強固なものとしします。
- ② JF共水連は、JF共済の健全性・信頼性の強化に努めます。

■ JF共済3か年計画（2020年度～2022年度）

浜の安心を未来へ ～ひろげよう共済の輪～

■ 活動基本方針

2020年度から2022年度までのJF共済新3か年計画では、「生命・建物の保障を組合員・世帯構成員・地域住民に幅広く提供し、JF共済の輪の拡大を図っていく。」ことに取り組みます。この取り組みを通じ、保有契約量および共済事業収入の維持・拡大を図り、JF共済の健全性・信頼性の強化に努めます。

JF・JF共済推進本部・JF共水連はそれぞれの役割に沿って、主要施策を着実に実行するとともに共済事業量目標の必達に向け取り組んでまいります。

■ 主要施策

- 1. JF組合員・世帯構成員および地域住民に対して、JF共済を広く浸透させ、JF共済の輪の拡大を図ります。**
 - (1) 浜のあんしんサポート運動の展開
 - (2) 重点取組施策の実施
 - (3) 法人組合員等に対する取り組み強化
- 2. JF共済事業の推進力強化を図るため、JF・JF共水連が一体となった共済推進体制を整備します。また、JF共済事業をささえるJF役職員・JF共水連職員の育成等に努めます。**
 - (1) JF共済推進本部とJF共水連の連携強化
 - (2) JFにおける共済事業の取組み強化
 - (3) JF共済の共済推進体制の整備
 - (4) JF共済事業を支えるJFおよびJF共水連職員の育成等
- 3. JF共水連は、組合員・世帯構成員・地域住民の保障ニーズに応じた共済制度の開発、JF支援態勢の強化およびJF共済の健全性・信頼性の強化に努めます。**
 - (1) 組合員・世帯構成員・地域住民の保障ニーズに応じた共済制度の開発
 - (2) JF事務負担の軽減等に資する取組み
 - (3) JF共済の健全性・信頼性の強化
- 4. 元気で活力のある漁村・地域づくりを支援します。**
 - (1) 漁村・地域活性化のための活動への支援
 - (2) 浜の諸活動のPR強化

■ 2020年度の事業概況

2020年度の日本経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、厳しい状況で推移しました。6月に緊急事態宣言が解除され、政府による各種経済対策もあり景気は上向きかけたものの、1月から一部の地域で緊急事態宣言の再発出や、まん延防止等重点措置が適用されたこと、さらに、変異株の感染拡大により緊急事態宣言が再々発出されるなど、先行きが不透明な状況が続いています。

生保では、感染症の拡大に伴う営業活動の自粛により、保険料等収入が大幅に減少しています。損保では、近年の自然災害の頻発で火災保険事業は赤字が続いており、2022年度に火災保険料の再値上げおよび長期契約の契約期間の短縮が検討されています。

水産業では、新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業を中心とした水産物需要の急激な落ち込みや昨今の海洋環境の変化等による記録的な不漁など、極めて厳しい状況が続いています。このような中で、改正漁業法が昨年12月に施行され、水産資源の適切な管理と漁業の成長産業化の両立に向けた水産改革の実践が進められています。

JFグループでは、2020年度より運動方針「水産業の成長産業化に向けた改革の実践」を策定し、JFグループが漁業者とともに自ら浜の未来を切り拓き、漁業の成長産業化に向けた改革を実践するため、浜の構造改革やJFの組織・経営基盤強化に取り組んでいます。

JF共済では、「浜の安心を未来へ～ひろげよう共済の輪～ JF共済3か年計画(2020年度～2022年度)」を策定し、初年度である2020年度は「浜のあんしんサポート運動」を展開し、全戸訪問活動、契約内容確認および保障点検活動を通じて、一人ひとりのライフプランに応じた生涯生活保障設計の提案を行ってきました。また、組合員への訪問が難しい場合には「JF共済あんしんサポートフォン・サポートだより」を活用するなど、感染防止に配慮した取組みを行ってまいりました。

主幹共済種目の普通厚生共済(チョコー)は、新規目標指標である推進保障共済金額が851億円(目標達成率 57.7%、対前年比 85.7%)と目標達成には至らず、保有契約量も対前年比で95.1%と厳しい状況が続いています。生活総合共済(くらし)の新規補償共済金額は1,090億円(目標達成率 89.5%、対前年比 90.0%)と目標達成には届かなかったものの、保有契約量は0.9%伸長しました。

なお、JF共済事業の健全性・信頼性の向上につとめ、経営の指標である支払余力(ソルベンシー・マージン)比率は、1,500.7%を確保することができました。

■ 主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
経常収益	61,816	70,982	68,783	58,289	55,625	
経常利益	3,596	3,610	2,369	2,177	2,152	
当期剰余金	2,936	2,405	1,516	1,348	1,341	
出資金	5,283	5,288	5,309	5,310	5,310	
出資口数 (千口)	528	528	530	531	531	
純資産額 (純資産の部合計)	27,477	29,769	31,132	32,359	33,493	
総資産額 (資産の部合計)	492,173	483,333	472,195	463,766	458,028	
責任準備金残高	444,881	432,686	419,964	411,536	404,277	
貸付金残高	4,615	4,081	3,706	3,440	2,934	
有価証券残高	409,544	383,891	372,440	366,100	357,966	
支払余力比率	1,318.3%	1,459.6%	1,533.7%	1,477.8%	1,500.7%	
剰余金の配当の金額 (会員配当額)	出資配当金	157	158	158	159	159
	事業分量配当金	—	—	—	—	—
職員数 (人)	399	389	382	382	385	
保有契約高	4,928,797	4,849,282	4,735,072	4,660,160	4,550,785	

(注) 保有契約高は長期共済(普通厚生共済、生活総合共済、漁業者老齢福祉共済)の各保有契約高および短期共済(乗組員厚生共済、団体信用厚生共済、火災共済)の契約高の合計です。

■浜のあんしんサポート運動の展開

JF共済では、漁村地域で生活する組合員や地域住民の皆さまが満足・納得のいく保障に加入できるよう、全国の漁業協同組合において、「浜のあんしんサポート運動」を展開しております。

本運動では、柱となる5つの活動（①全戸訪問活動、②ご契約内容確認活動、③ご契約者台帳整備、④保障点検活動、⑤生涯生活保障設計による提案）により、組合員・世帯構成員や地域住民の皆さまの生活・福祉の向上を図ることを目的としております。

また、電話や手紙を活用した「JF共済あんしんサポートフォン、サポートだより」を併せて展開することで、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めながら組合員や地域住民の皆さまの安心を心がけた活動も展開しております。



コロナ禍における「浜のあんしんサポート運動」周知チラシ

■JF共済70周年記念事業について

1951年に開始したJF共済は、2021年に創設70周年を迎えました。JF共済は次の記念事業を展開し、共済事業の盛り上げと更なる発展を目指します。

○JF共済70周年チョコご加入全国キャンペーン

2021年4月～2022年3月のキャンペーン期間中、チョコにご加入いただいた方を対象に、抽選で全漁連のネットショップ「ギョギョいち」で利用できるクーポン券が当たる内容となっております。

○普通厚生共済「介護共済」の新設

組合員の皆さまの保障ニーズに応え、2021年10月に一時払介護共済「あしすと」、三大疾病保障特約付介護共済「あしすとぷらす」を新設します。

○全国研修会の開催

全国のJF共済担当者向けに、コロナ禍における感染症対策に留意した、「JF共済創設70周年記念全国JF共済担当者研修会」をWebにより開催し、浜に向けてJF共済の普及拡大を図ります。

○情報誌『命の声』の発行

東日本大震災から10年が経過したことをふまえ、漁業者から漁業者に伝える災害から命を守るための情報誌『命の声』を発刊します。

○JF共済70周年記念ソング

JF共済イメージキャラクター「竜徹日記」作詞作曲による、「めぐりめぐる ～浜の仲間とつなぐ絆～」をリリースして、JF共済の諸活動に活用していきます。



全国キャンペーンポスター



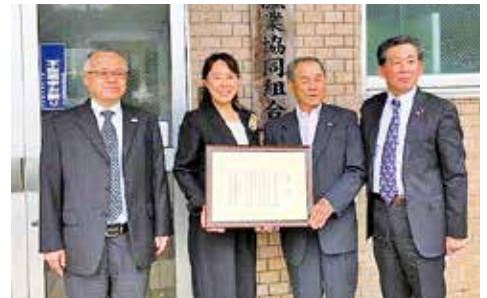
竜徹日記

■ 漁村・地域活性化のための活動・支援

JF共済は、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域作りに貢献するため、様々な活動を実施・支援しています。

① 全国のJFにおける諸活動の支援および表彰

JF女性連が実施する「海を守る活動」をはじめとするJFの各活動を支援および表彰を行うことで、環境保全活動や漁村・地域の活性化に取り組んでいます。全国の青年漁業者や漁村女性らが一堂に会して日ごろの活動や研究成果を発表し、交流を深める「全国青年・女性漁業者交流大会」(主催：JF全漁連)が2021年3月に開催されました。審査の結果、JF共水連会長賞に安房漁業集落屋久島いお結び(鹿児島県)の「屋久島のさかな魅力発信プロジェクト ～人と地域と魚を結ぶ～」が受賞いたしました。屋久島いお結びは料理教室などの魚食普及活動や、地域の漁業・水産物の魅力発信に取り組んでいます。



表彰状授与のようす



新規就業者研修修了式のようす

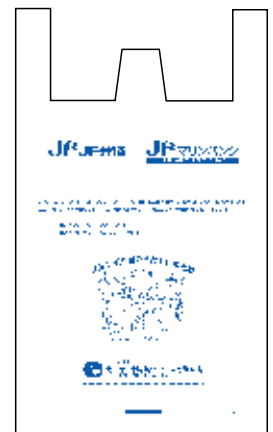
また、漁村地域の活性化に漁業者が自ら取り組む「浜の活力再生プラン」の優良事例表彰(主催：JF全漁連)が2021年3月に行われました。2020年度は、吉佐地区地域水産業再生委員会(山口県)が共水連会長賞を受賞いたしました。吉佐地区では、漁協直営店を新設して地元水産物の販売を強化するとともにアサリなど漁場の資源管理にも計画的に取り組んでいます。また、一度途絶えてしまった伝統食を復活させ、地域の食文化を守っている取り組みなどが評価されました。新規就業者に対しては独自の研修会を開催するほか家族も含めた手厚いサポートを行うことで就業者の定着につながっています。取組の詳細については、P.33～34にてご紹介します。

② 美しい海を守る活動への支援

JF共済は、理念である美しい海と漁業を守るための取り組みを行っています。2020年度は取り組みの一環としてJF全漁連・農林中央金庫と連携し、JFグループが行う海浜清掃活動に使用のごみ袋を作成(2021年4月に配布)するなど美しい海を守る活動を支援しました。

③ 海難・海上災害防止活動への支援

JF共済は、海上災害の防止に取り組むため、漁船等へのAED設置費用の助成を行っています。また、全国漁船安全操業推進月間の周知啓発キャンペーン(幹事団体：一般社団法人 大日本水産会)、公益社団法人 日本水難救済会の活動に協賛しています。



海浜清掃用のごみ袋

④ 「浜の健康応援団ホットライン」の設置

健康や介護に関するお悩みをお電話にて無料で気軽に相談できる「浜の健康応援団ホットライン」を設置しています。365日・24時間いつでも開設しており、携帯電話・スマートフォンからご利用いただけます。

健康相談例

- ・手や足に痛みがあります。症状の原因など予想されることを教えてください。
- ・数年前から朝と風呂上りに眩暈と動悸が起きることがあります。何科を受診したら良いか教えてください。
- ・将来、介護が必要になった場合、どのように手続きをしたらいいですか。

